科目区分，授業科目名　教職科目A・初等国語科教育法
担当教員：中西淳

「初等国語科教育法」の考察

国語科教育講座　中西　淳

Ⅰ　授業の概要

本授業は、初等国語科の授業理論の理解を深めていくところにある。受講者は４８名である。授業は、講義形式とワークショップ形式の両者を用いて、以下の構成で展開した。

（１）国語科教育について
（２）国語科教育の目標と内容
（３）国語科授業論
①国語科授業の構成要素
②国語科学習指導案の書き方
・第六学年国語科学習指導案
・その他の形式
（４）国語科学習指導論
①話すこと・聞くことの学習指導
②書くことの学習指導
③読むことの学習指導―説明的文章―
④読むことの学習指導―文学的文章―
⑤伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
（５）まとめ

Ⅱ　授業の工夫点

以下、授業の工夫点について述べる。

（１）多様な授業実践の紹介

国語科教育の理論と実践との結びつきを深く理解させるために、多くの実践例を紹介した。また、「話すこと・聞くことの学習指導」においては、小学校の授業を記録したビデオを活用した。

（２）ワークショップ形式の導入

国語科教育の目標と内容を深く理解させるために、次のようなワークショップ形式と講義形式を組み合わせた授業を行った。

〔国語科教育の目標と内容・１コマ目…ワークショップ形式〕
①自分達が、指導要領における国語科の「目標」をつくるとするとどのような案にするか、それをグループで考えさせる。
②その案をグループごとに発表させる。
③それらをもとに議論させる。

〔国語科教育の目標と内容・２コマ目…講義形式〕
①教育関係法規を概説し、国語科教育がその中でおいてどのように位置付いているかを確認させる。
②学習指導要領における国語科の目標や内容を具体的に説明する。
③それと自分たちが考えたものと比較しレポートを作成させる。

（３）学習の追体験

「読むこと学習指導―説明的文章―」においては、この分野で評価の高い実践を紹介した。そこでは「ペア対談」という方法が用いられている。一般的にこの分野の授業展開は、「①全文を通読する②南国の指導をする③段落分けをする④段落ごとに要約をとらえる⑤段落と段落の関係をとらえさえる⑥全文の大意や要旨をまとめる」というものになりがちである。「ペア対談」はそれと全く異なる方法である。その実践にどのような意味があるのかそれを実感させるために、小学生の立場になって「ペア対談」を追体験させた。

Ⅲ　アンケートの分析

授業の最後にアンケート調査を行った。その内容は「これからさらに学びたいこと」である。以下はそれを分類したもの（括弧内は記入事例）である。

○教師自身の力について

「子どもたちを指導するにはやはり教師自身が力を持っていないといけないが、これまでの学習で養われていない力があると気付いた時、どう力をつけていくか。」

「「書く力」について講義の中でも重点的に取り上げましたが、まず自分自身の書く力がいかがなものかとても気になりました。教師自身の書く力がなかったら子どもたちに身につけさせることはできません。講義の中でも自分が書いてきたレポートを他の人に読んでもらって評価してもらう作業をしましたが、このようなことはもっと機会を増やしてほしいと思いました。」

「話すことについてもっと詳しくやりたかった。自分たちが１番弱い部分だと思うので。」

「前半の方で国語科教育の目標等を班で考え発表していく中で、質問というものが浮かびませんでした。これまで私が受けてきた授業は受け身でいたら話が進んでいくというものがほとんどだったからです。話を聞く上で考えながら聞くという姿勢を身につけるためにはどう指導すれうばよいのか？また、自分自身が身につけるためにはどうすればよいか学びたいです。」

○評価方法について

「子どもたちの弱いと思われる力は、どのように見つけていけばよいのか」

「授業における児童の理解度の確認方法」

「書くことについての授業で作文における指導を取り扱いましたら、もう少し詳しく児童が書いた作文をどういう観点から見て、評価していけばいいのか知りたいと思いました。」

「授業における学習者の理解度の確認方法」

「確かな読みとは具体的にはどのようなものなのか」

○授業方法について

「ペア対談など、実際行われた斬新な授業をもっと自分も受けてみたい。」

「教材研究、特に書く力を養う授業や将来へつながる論理的文章を読む力を養う授業についてもう少し詳しい説明があれば良いと思います。この二つの力に関しては一本調子の授業を受けてきたので、教授していただいた論や授業の一例は新鮮で非常にためになりました。しかしいざ教壇に立ったとすると、従来型の一本調子の授業をしまいがちになりそうだと不安になっています。詳しい説明があればその心配もなくなってくると思います。」

「私の自分が教師になったときに、とても参考になるのでいろいろな先生の実践例をもっとみたかったです。いくつかあったけれど全て私にとって新しい授業方法だったのでとても勉強になりました。」

「指導法についてもっと詳しく知りたい。」

「生活に生かせる授業法のうち、形式的でない今まで自分の知らなかったもの」

「作文指導のより具体的な授業例を知りたかった。特に、読書感想文については、自分自身思ったことをかけばいいといわれて戸惑った記憶があるので、書くきっかけを与えることのできる指導を考えたい。」

「実際の教材や授業をいくつも知ることができてよかったが、もっといろいろな授業を見てみたいと思った。」

○他教科と国語科の教育の関係について

「社会に出ると教科は未分化であるため、より他教科と関連づける必要があります。具体的にイメージできずにいるので、例えばどういった展開があるのか知りたいです。」

○教育観について

「なぜ国語科の授業では説明文だけでなく文学作品を扱うのか。このテーマを今まで考えたことはなく、改めて考えてみても説明文の方が日常生活で多用されている。今日では文学作品の必要性が薄れていると思っていました。しかし「疑似体験により、想像力、思考力等を育成させられる」とのことばを聞いて、とても納得しました。面白い内容だったのですが時間が少し短かったため、もう少しお話が聞けたらと思いました。」

○板書について

「国語の授業で板書をどう活用していくか。」

Ⅳ　まとめ

工夫点（１）～（３）に関しては授業の様子やレポートを見る限り成果をあげていた。アンケートから浮かび上がってきた授業の改善の視点として、特に次の３点があげられる。

①　授業実践例を丁寧に紹介すること

②　評価のあり様を具体的に示すこと

③　受講生の国語力を向上させていくこと